

animal donation magazine

公益社団法人
アニマル・ドネーション 活動報告 <第15期>



“もしも”の時に
犬猫の安全を守る!
ゼロから始めるペット防災

幸せになった保護犬猫たち
パタパタパネル展

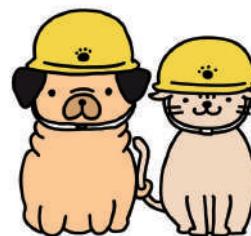
\オンライン寄付以外にも！/
さまざまな寄付企画を通して
犬猫の保護活動などを支援できる！

“もしも”の時に犬猫の安全を守る

ペット防災対策とは？

地震や台風は「まさか」の時に突然起こります。そんな時、ペットとどうやって避難すればいいのか、不安に思ったことはありませんか？ゼロから始める防災の備えについて、獣医師であり防災士でもある今本先生にお聞きしました。

(取材・文／アニドネ鈴木朝美、イラスト／acco)



新庄動物病院 院長
獣医師
今本成樹さん
(いまもと しげき)

帝京科学大学非常勤講師。PennHIP認定医(アメリカ)、WUSV認定レントゲン実施獣医師(ドイツ)。ねこ医学会(JSFM)認定 CATvocate(猫の専任従事者)。防災士。

地震関連で命を落とす確率は、宝くじの当選確率より高いという事実

私は獣医師であり、防災士でもあります。普段は動物たちの命と向き合いながら、災害時にどうやって人とペットが一緒に生き延びられるかということも考え、講演などでお話ししています。

災害というのは、誰にとっても突然やってきます。でも、多くの人が「まさか自分が被災するなんて」と思っている。——あなたも、そう思っていませんか？でもね、現実を見てください。日本ではこの100年で、地震関連で亡くなった人が20万人もいるんです。これは宝くじに当たるよりずっと高い確率なんですよ。宝くじは買うのに、防災はしない。それっておかしくないですか？

災害リスクは場所ごとに違う まずは「自分の地域」を知ることから



まず大事なのは、「自分が住んでいる地域ではどんな災害が起こりうるのか」を知ることです。地震だけじゃない。台風、ゲリラ豪雨、火山の噴火だってある。例えば、私が住んでいる奈良県は内陸なので津波の心配はありません。でも台風は来ます。一方、火山灰が降る地域では、ペットも人も外に出られなくなったりします。自分の住む地域の特性を知ることはとても大切です。そして、ハザードマップを見ること。どこに避難すればいいか、家族と話しておくこと。「この避難所で集合する」。そう決めておくだけでも、いざというとき全然違うんです。

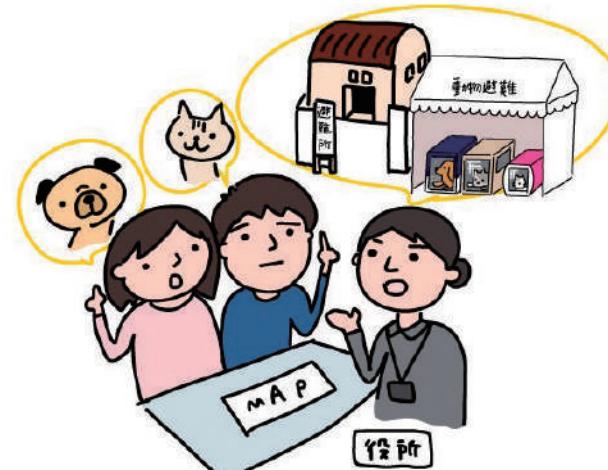
そして覚えておいてほしいのは、災害は動物にも大きなストレスを与えるということ。

避難所に入った猫の9割が膀胱炎や風邪になったという統計もあります。ストレスで下痢になった犬もたくさんいたそうです。だから、いざ避難となった時には、ペットにできるだけストレスをかけない環境で、一緒にいたいですよね。

ペットと一緒に避難するために、「聞いてみる」をやってみよう

ではどうすればいいのか。私の経験を話しますね。地元の避難訓練の時、「猫を連れて行ってもいいですか？」と聞いたんです。そしたら「ペットのことは考えていません」と言われました。でも、私はこう返しました。「では、考えておいてください」と。そのひと言がきっかけで、この町にはペット可の避難所ができました。

「この避難所はペットも入れますか？」と、役所で聞いてみてください。「入れません」と言われたら、「じゃあどうしたらいいんですか？」って。それだけでいいんです。難しいことはいりません。そういう問い合わせが、行政に気づきを与えます。それが、ペット防災の第一歩なんです。一人ひとりの声が集まれば、行政も動きます。自分の声が、ペットのために地域を変える力になるんです。



「練習なしの本番」に備える。 だから日常から始めよう

災害は、いきなり始まる「初めての試合」のようなものです。スポーツなら練習してから試合に出ますよね？でも、災害は練習な

しで本番。しかも命がかかっている。そこにペットも一緒にいる。だから、本気で向き合わないといけないんです。ぜひ避難訓練や防災イベントに参加してください。大型の商業施設や観光施設では、定期的に防災訓練を実施している所があります。そういう場所をリサーチしてみましょう。災害対策のリハーサルです。また、そこで「うちのペットも連れてきていいですか?」「うさぎやハムスターでも避難できますか?」など、具体的な質問を投げかけるといいでしょう。そうすることで、運営側に“気づき”を与え、結果的に地域全体の備えを進化させる力になります。

実は私はマンションの管理組合の理事になった時、組合に呼び掛けて避難訓練を始めることにしたんです。住民たちの防災意識や共助の意識も高まるし、住民同士のコミュニケーションも生まれて、いいことだらけです。



ペットの命を守れるのは、 飼い主である「あなた」だけ

いざという時でも、避難所に、ペットだけ連れて手ぶらで行けることが理想です。それができれば、避難生活だって乗り越えられます。「まさか自分には」なんて思わないでください。そして、「大切な家族であるペットのことだからこそ、ちゃんと向き合おう」って、そう思ってもらえたなら嬉しいです。飼い主のあなたなら、きっと動けるはず。大切な命を守るために、ペットのための防災対策を今日から始めましょう。

＼＼アニドネ鈴木が実際にやってみた！／／

区役所で聞いた ペット避難



今回の取材をきっかけに、居住地の区役所を訪ねてみました！危機・災害対策課では、職員の方がとても丁寧に対応してください、同行避難が可能だと教えてくれました。さらにハザードマップなどの防災資料もいただき、まさに安心材料の宝庫。知らなかつたことを直接聞けて、とても心強く感じました。ただし同じ空間で過ごすことは難しく、ペット専用スペースにまとめられるそうで、不安が残ります。私は率直に「同じ空間で過ごせる工夫を」とお願いし、職員の方は「課題として検討したい」と教えてくださいました。今回の訪問で、区役所は気軽に相談できる場所だと実感しました。いざという時にどんな環境で避難生活を送るのかを知ることは、準備につながります。まずは自分の地域の避難所について確認してみることを強くおすすめします。

認定団体に学ぶ 「ペット防災」の現状

アニドネ認定団体は、
ペット防災にも積極的かつ前向きに取り組んでいます。
3つの団体が実際に進めている工夫と備えをご紹介します。

特定非営利活動法人 ねりまねこ

東京都練馬区の災害時ペット管理ボランティアに登録し、定期的な勉強会に参加。建物を2棟所有し十分な備蓄を行うとともに、練馬区登録ボランティアのネットワークを築き、災害時に分散して支援が受けられる体制を整えています。また全頭譲渡を基本とし、保護数を最小限に抑えることで、いざという時により柔軟に対応できるよう努めています。



特定非営利活動法人 DOG DUCA

施設の耐震工事を行い、地域の小学校でペット同伴避難ができるよう調整しています。学区の防災対策委員会で動物担当を務め、小学校での対応が難しいペットについては施設で保護できるよう、サークルやフード、水などを備蓄しています。吠える子や排泄に不安のある子も受け入れ、トラブルを避けながら飼い主が安心して避難できる環境を整えています。



一般社団法人 ゆめまるHAPPY隊

フードや薬、ケージ、生活用品を常に補充しながら備蓄しています。特に長期保存が可能な缶詰を重視し、キャリー やケージも豊富に確保。数回の搬送で保護動物を安全に移動できる体制を日頃から準備しています。さらにバスタオルやシートなど生活用品も充実させ、災害時でもできる限り普段に近い環境で動物が過ごせるよう心を配っています。



幸せになつた保護犬猫たち パタパタパネル展

2025年4月3日～6日に、東京ビッグサイトにて実施された日本最大級の国際ペット産業見本市『第14回インターペット』にアニドネが初出展し、「幸せになつた保護犬猫たち パタパタパネル展」を実施しました。



Before & Afterで見る、保護犬猫のストーリー

パタパタパネル展とは、犬や猫のレスキュー時の様子(Before)と充分にケアをされ新しい家族の元で生活している現在(After)の様子を、パネルをめくることで知ることができる展示です。

アニドネが認定して情報支援や寄付をお届けしている保護団体より、画像素材とともにエピソードをお伺いし、犬猫合わせて18ストーリーを紹介。日本には過酷な環境で生きる犬や猫がまだまだたくさんいて、1頭でも多くの命を救おうとたくさんの保護団体が活動しています。厳しい環境で暮らしていた動物たちが、保護団体の手によって見違えるほど幸せそうな姿に変わる—。

そんな劇的な変化と、陰で支えるスタッフの努力を同時に知ることができます、今までにない形の写真展となりました。



パネル展を通して広がった、来訪者との共感と対話

ブースに立ち寄っていただいた来訪者からの声も印象的でした。

動物関連の学校に通う友人と来場していた女性(20代)からは、「動物福祉について知ることは大事なことだと思う。このような機会はなかなかないので、じっくり見ることができて嬉しい」とコメントが。

小学生の息子と愛犬と共に来場していた女性(40代)は、「子供と一緒に見ることができてよかったです。保護犬が幸せになっている様子を見ることができてホッとした」とスタッフに伝えてくれました。

さらに、静岡県から来場した獣医師の男性(40代)は、「多頭飼育崩壊で30頭の猫を保護した経験があります。このような認知を上げる啓発活動と法改正を両輪で進めることが大切。応援しています」と、活動への賛同をいただきました。



展示した内容は、AWGsサイト「保護犬猫Before/After」でも紹介しています。
会場に来られなかった方も、ぜひオンラインで体験してみてください。



2024年
12月2日～

アニドネの新認定6団体をご紹介

アニマル・ドネーション(以下、アニドネ)は、支援させていただく認定団体の公募を毎年行っています。

厳正なる審議プロセスを経て、2024年12月より新たに6団体が仲間入りし、合計46団体となりました。

素晴らしい理念と目標を掲げ活動する団体さんをご紹介します。



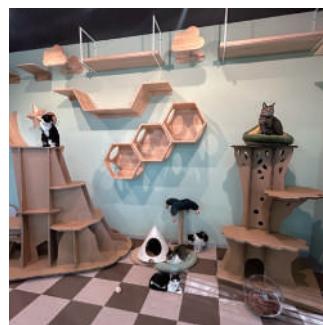
保護団体

住所：高知県高知市

特定非営利活動法人 アニマルサポート高知家

毎年100頭を超える犬猫を
保護し、新しい家族へと繋ぐ

高齢化率全国トップクラスの高知県では、高齢者とペット問題が多発しているため、解決策を模索し懸命に活動。保護施設は持たず、預かりボランティア宅で手厚くケア。犬猫の販売を中止したペットショップ『アシスト南国』と協働し、常設譲渡会場ouenスペースにて譲渡会を毎日開催しています。



活動開始日：2018年7月(法人化：2019年5月30日)

保護団体

住所：秋田県秋田市

特定非営利活動法人 いぬ・ねこネットワーク秋田

行政との連携強化で秋田県の保護活動を牽引

秋田県動物愛護センターと秋田市保健所と協力体制を確立し、連携を強化。行政から引き取った犬猫を保護・譲渡することで、秋田県内の保護活動を牽引する存在として積極的に取り組んでいます。また、人と犬猫が共に快適に暮らせる環境を目指し、不幸な犬猫が一頭でもいなくなるよう努めています。



活動開始日：1997年9月(法人化：2020年1月)

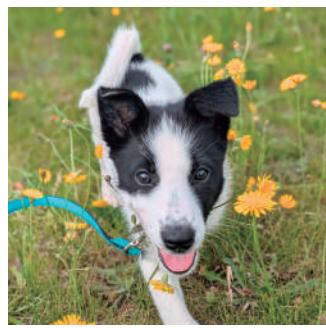
保護団体

住所：北海道札幌市

犬のM基金

北海道の多頭飼育崩壊や
野犬問題縮小を目指して

保護した犬は、預かりボランティア宅で飼育し、全頭無償で譲渡を進めています。ボランティア宅を2～3ヶ月ごとに入れ替えることで、犬たちの社会化を促進し、譲渡率の向上に努めています。また、北海道に多い多頭飼育崩壊からのレスキューや野犬問題の縮小を目指し、活動の範囲を拡大しています。



活動開始日：2010年5月1日

保護団体

住所：岡山県倉敷市

特定非営利活動法人 倉敷猫まもりの会

地域との連携で年間
約250頭の猫を保護

乳飲み子猫を中心に、年間約250頭を保健所や地域からレスキューし、預かりボランティアによる手厚いケアを行うことで、確実に譲渡に繋げています。また、預かりボランティアの育成を目的として、猫の正しい飼い方セミナーやミルクボランティア講習会などを開催。保護活動の啓発にも力を入れています。



活動開始日：2014年4月

啓発団体

住所：愛媛県松山市

認定特定非営利活動法人 えひめイヌ・ネコの会

動物福祉の推進を目指し
多岐にわたる啓発活動を

人と動物のより良い共生社会の実現を目指し、行政やボランティアと協働で犬猫の不妊・去勢手術の推進や、多頭飼育崩壊現場の救済活動を行っています。また、「ペット防災管理士」の養成やペット防災知識の普及など、多岐にわたる啓発活動を全国で展開し、動物福祉の発展に努めています。



活動開始日：1994年4月(法人化：2002年5月13日)

啓発団体

住所：東京都千代田区

特定非営利活動法人 ちよだニャンとなる会

見捨てられる猫の命ゼロの社会実現を目指して

東京都千代田区と協働で、「飼い主のいない猫」の問題に取り組み、「殺処分ゼロ」を実現。さらに活動を拡大し、「見捨てられる猫の命ゼロ」を目指しています。老猫ホームの運営やイベントを通じて、啓発活動も展開。多くの動物が幸せになれる社会を実現するため、行政への政策提言も積極的に行ってています。



活動開始日：2000年4月

認定団体募集

2025年度は、3月に支援希望の団体エントリーを受付、10月に審議委員会を実施し、12月に認定団体を決定しました。
2026年度の募集は、決定次第、アニドネHPで告知いたします。

アニドネなら

＼オンライン寄付・公式サポーター以外にも、／

さまざまな方法で寄付や支援ができる！

「普通に寄付をするのもいいけど、何か活動を通して寄付することが出来れば…」と思う方のために、アニドネでは、寄付つき自動販売機を設置したり、店頭に募金箱を置いていただくなど、さまざまな方法で寄付に参加することが可能です。

今回はその中でも、企業との「保護活動支援プロジェクト」、商品の一部に寄付をつける「ナイイコト」をご紹介します。

保護活動支援プロジェクト

物品提供や情報支援により保護現場の活動をサポート！

企業×アニドネ×保護団体が一緒に改善に取り組む

サンスターグループ

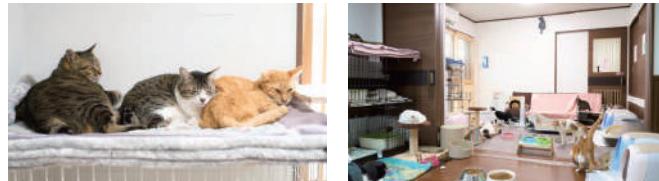


(左)サンスターグループ 田村隆典様、
(中央)ねこひげハウス 石川砂美子様、
(右)アニドネ 山本和子

ペット用の除菌脱臭機 QAIS-air-04A1J(クワイエア)を販売しているサンスター様。「保護犬・保護猫の環境改善に役立つならば」ということで、たくさんの保護猫が生活しているシェルター内のニオイ問題解消に向けた取り組みを、サンスター×アニドネ×保護団体「ねこひげハウス」で実施しました。

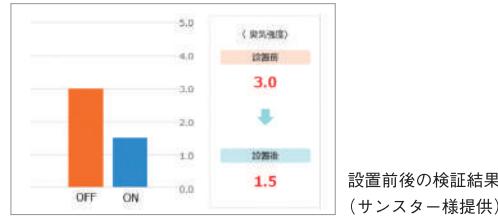
環境改善は、猫だけでなく 現場スタッフのモチベーションUPに

交通事故・虐待等により負傷した猫、障がいや持病持ちの猫など、一軒家のシェルターで約100頭の保護猫をお世話している「ねこひげハウス」。1部屋に20頭以上の猫がいることもあり、以前より部屋に入った時にフードやトイレのニオイが気になっていたそうです。



サンスター様よりご寄付いただいた12台のうち6台を、猫26頭が生活する2階の一部屋に設置し、設置前と設置後でニオイの強度を確認。臭気判定パネラー試験に合格したプロの測定者にご協力いただき、採取した部屋の空気サンプルを嗅いでもらい測定しました。

※検証は旧施設で実施、現在は新施設に移転。



数値としての変化に加え、スタッフからも嬉しいコメントが。

- 朝イチのムワっと臭が軽減され 気分スッキリ掃除が開始できる
- 猫たちも綺麗な空気が吸えて、保護施設として良い環境だと胸を張れる
- 換気にこだわらず、掃除の順番が

まずトイレからと 焦らなくても良いのが助かります

時間的にも、気持ち的にも余裕ができる、保護猫たちの細かい体調変化にさらに気づけるかもしれません。「ねこひげハウス」に加え、保護活動をしているアニドネの認定団体に合計60台のペット用の除菌脱臭機をご寄付いただきました。

ナイイコト

商品(もしくはサービス等)を購入すると、
その売上的一部分をアニドネを通じて認定団体へ寄付できる

株式会社ジュエリー工房Orefice(オレフィーチエ)



「10年後も愛着をもってお使いいただけるジュエリー」をコンセプトに、オリジナルジュエリーを企画・販売。チャリティ企画の商品として、肉球のコインネックレスや3種類の猫モチーフのジュエリー(リング、イヤーカフ、ネックレス)、ピアスチャームなど、猫をデザインした新作ジュエリーが続々と登場。売上的一部分の寄付に加え、商品購入時に付与されるポイントを寄付できる仕組みを作っていました。

私たちオレフィーチエのジュエリーは「日常に寄り添うもの」。コロナ禍の2020年から、当たり前の日常を送ることが出来ない人やペットに對して私たちにできることとして、「幸せのお裾分け企画」を毎年実施してきました。ジュエリーを購入するタイミングは幸せを感じるタイミング。その幸せを分け合うことで小さくても、当たり前の日常を取り戻すお手伝いができると考えています。(株式会社ジュエリー工房Orefice 中村誠)

山と渓谷社



山岳雑誌「山と渓谷」を中心に、自然に関する雑誌・書籍を販売する「山と渓谷社」様。毎年好評の保護猫写真家・三吉良典さんのチャリティーカレンダーが、壁掛け版と卓上版の2種類となって登場。2025年に新たに登場した卓上カレンダー「こねこのこもりうた」は、ミルクボランティアとして活動する三吉さんが、保護した子ねこたちの安心して眠る姿を集めたもの。カレンダーの売上の3%に寄付をつけてくださいました。

毎年寄付させていただいているが、写真家の三吉さん、また読者の皆様からも好評で、引き続き寄付させていただきたいと思いました。今年も、これらカレンダーを通して保護猫やミルクボランティアについて、少しでも多くの人に興味を持っていただき、身近に感じていただければと思います。加えて、寄付によって実際の猫たちの暮らしを守る活動にも協力できるのは、本当にありがたい仕組みです。(株式会社山と渓谷社 神谷 有二)

アニドネ活動レポート<第15期>

一つの命から幸せや優しい心が広がっていく。アニドネの存在意義とは



公益社団法人アニマル・ドネーション
監事／税理士
松本 優

公益法人の制度が2025年4月から大きく変わりました。どの法人も新しい制度に対応できるよう、準備を進めていく段階です。真面目なお話は前回行ったので、今回は個人的なお話を少しだけ。

今は保護犬・猫は多くの方が知っている言葉ですが、アニドネに参加するまで私は知らず、気づけば保護団体のホームページを頻繁に見るようになり、そして元保護犬のロンが家族になりました。

そんな中、アニドネは行政機関から定期的な立入検査を受けることに。その時の担当官の言葉が今でも忘れられません。

「動物を救うことは、社会にどんな良い影響をもたらすのでしょうか？」

当時果たして上手く回答できたか。法人側と行政機関との感覚の調整を行うのも私の役目ですので、「上手く」は回答したのだと思います。

10年以上ともに暮らしたロンは昨年亡くなりました。動物は自分が幸せになった分だけ、人間にその幸せを分けてくれる存在だと私は思っています。ロンの闘病中に小学校で命について考える授業があり、息子はロンの体に起こっていること、自分が感じていることを発表したそうです。そのことは後になって、彼のクラスメートから聞きました。

一つの命を救うことで、世代を超えて幸せや優しい心が広がっていっています。人と動物が真に共生する社会がもたらす大切な出来事に思えました。私や家族にそういったキッカケを作ってくれたのがアニドネです。

第15期 寄付総額

1億2,106万円

アニドネ公式
法人サポーター

(アニドネ自身の活動を応援)

●エグゼクティブサポーター

株式会社
サイバーエージェント CyberAgent.



株式会社翼



ペットのお葬式&
思い出工房



のこと。マルシェ
のこと。マルシェ



小滝橋動物病院
ハルベツツ

MY DEAR ANIMAL

帝京平成大学

MY DEAR ANIMAL

帝京平成大学



nademo



ペットライフスタイル
株式会社



Dog salon Star sea



(株)メイクマイディ



ふらり



株式会社ケーワン



Gazing at the future



ネット募金



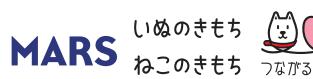
LINEスタンプ

HaMinT

Flowering



ほほ日



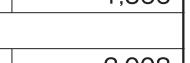
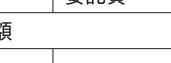
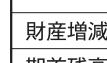
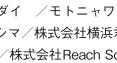
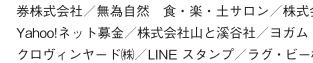
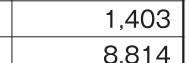
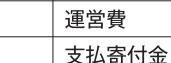
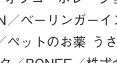
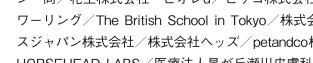
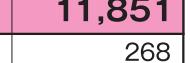
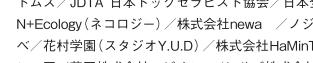
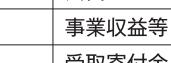
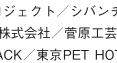
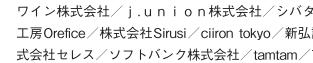
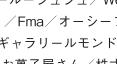
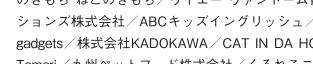
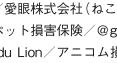
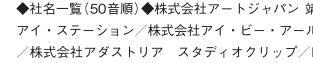
cocoro



NO JESS



株式会社ネオス



ご支援ありがとうございます。みなさまのご期待に

応えられるよう、今後も活動してまいります。

第15期 収支表

(2024年6月1日～2025年5月31日)

(単位：万円)

収入	12,486
会費	315
事業収益等	65
受取寄付金	12,106
支出	11,851
交通・通信費	268
運営費	1,403
支払寄付金	8,814
委託費	1,366
財産増減額	
期首残高	3,008
当期増減額	635
期末残高	3,643

※詳細はHPに掲載している決算書をご覧ください。

※支払寄付金は、アニドネ認定団体への寄付金となります。

「犬猫保護団体 活動白書2025」発表!

176の保護活動団体から寄せられた声をもとに、保護活動の実態や、保護団体の考え方を考察しました。

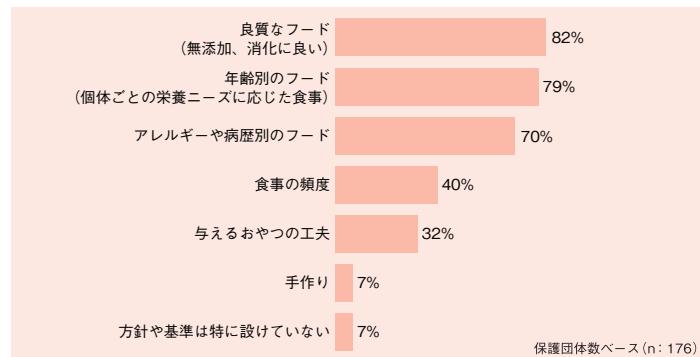
本白書を通じて見えてきたのは、保護活動が感情のある生命存在である犬猫の視点に根ざしているという事実です。

一方で、それほどまでに丁寧に動物と向き合っている団体が、今もなお活動原資の調達において課題を感じている現実も浮かび上がりました。

福祉向上に対する団体の強い思いが浮き彫りに ～運営体制と栄養管理～

調査対象団体において、従事している人数の80%以上が無償のボランティアにより活動しているという点が目につきました。日々の活動がそのボランティアの善意によって支えられている現状があります。そして、保護団体が「ただ命をつなぐ」だけではなく、動物福祉の視点を持って保護動物の生活の質を高めようとしていることが読み取れました。なかでも食事は生きるためだけでなく、動物福祉の柱のすべてに関わってきます。良質なフードを与えていたる団体が82%、さらに年齢別、アレルギーや病歴別など個体の栄養ニーズに合わせたフードを与えていたる団体が70~79%となりました。保護団体の大多数が栄養管理を重視していることを示唆しています。

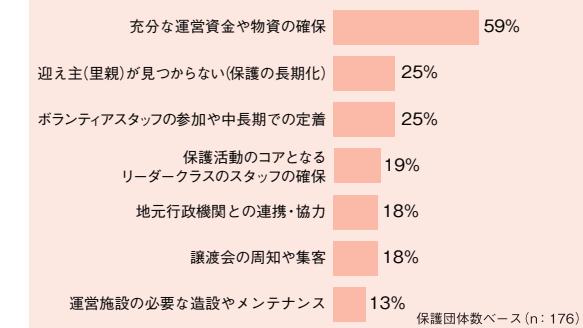
保護している犬猫の栄養管理に関して どのような方針や基準を設けていますか(複数回答)



団体が抱える課題は「原資不足」～課題感と期待～

資金や物資の確保に課題感を抱えている団体が60%近くに上りました。資金面では多くの団体が寄付金や譲渡費用に依存しており、厳しい運営を強いられていることが推察されます。

団体活動や運営に関して感じている課題を 3つまでお答えください。



調査概要

●調査の目的：犬猫保護団体の現状と課題を確認し、今後の活動レベルおよび一般認知の向上につなげる。保護犬猫の迎え入れ促進や動物福祉改善へ向けた方向性を、業界・行政など多様な視点で検討する。

●調査期間：2024年12月12日～29日 ●調査方法：オンライン調査

●調査元：公益社団法人アニマル・ドネーション

●調査協力：アマゾンジャパン合同会社

●調査回収数：アマゾンジャパンの保護犬・保護猫支援プログラムに登録している犬猫保護176団体(犬のみ：20団体、猫のみ：98団体、犬猫両方58団体)



アニドネ主催

「STORY with PET」 第7弾

キャンペーンの趣旨

犬や猫たちにとって、おやつはしあわせの瞬間の1つ。ですが、保護された後、生きるためのご飯や安全なお家、治療などが優先され、嗜好品であるおやつまで提供できる保護団体は限られています。「保護犬・保護猫にもおやつを食べてみてほしい。そして、しあわせを感じてほしい」そんな想いから、「おやつを寄付する」プロジェクトを、2025年3月3日～4月30日の期間に実施いたしました。



「ペットフードロス削減」
通販サイト“cocoro”さん
からおやつを購入してお届け



30万6550円分のおやつを、
アニドネ認定団体の保護犬・猫に
お届けしました！

届いたおやつを楽しむ、保護犬・猫たち



特定非営利活動法人
猫と人を繋ぐキネコ北海道



一般社団法人
ゆめまるHAPPY隊

賛助会員プログラム

「アニドネ公式サポーター」 募集中

会員費は、アニドネが支援団体を選考する際の調査活動、オンライン寄付サイトの運営、動物関連のリサーチ＆情報発信活動に活用いたします。



- ①個人会員：アニドネ公式サポーター
会費：毎月1,000円、3,000円、5,000円、10,000円
会員資格：どなたでも可能
- ②ジュニア会員：アニドネ公式ジュニアサポーター
会費：毎月500円
会員資格：18歳未満
- ③法人会員：アニドネ公式法人サポーター
会費：年間30,000円～
※賛助期間：1年間～
会員資格：動物福祉に沿っていない企業を除く全企業
※法人として一定の審査あり

寄付控除について

アニマル・ドネーションは「公益社団法人」です。ご寄付をいただきました個人様は寄付金の優遇税制対象となります。
※企業様については、アニドネHPの「税金控除の対象」内をご確認ください。

寄付金額の40%～50%が戻ってきます

寄付金から2,000円を引いた額の最大50%(所得税40%+住民税10%)が戻ってきます。

例えば、5万円を1年間に寄付した場合、2,000円を引いた48,000円の40%～50%が還付され戻ってくるのです。※注

※注 住民税も寄付金控除の対象となります。例えば東京都港区の場合は、控除割合は最大10%(都道府県民税4%／市区町村民税6%)となります。
ただし、各自治体によって異なります。※詳しくはアニドネHPの「税金控除の対象」内をご確認ください。

magazine STAFF



EDITOR アニドネ 山本和子



DESIGNER 赤星淳一

animal donation magazine vol.10
(2024年6月～2025年5月)

発行：公益社団法人アニマル・ドネーション
住所：東京都港区南青山2丁目 15-5 FARO1F
代表理事：西平衣里
URL：https://www.animaldonation.org/